

生徒が楽しんで取り組み、達成感をもてる被服教材を探して

2時間の実習はともすれば大きな負担になり、準備やかたづけに時間がかかった割に、生徒が授業中落ち着かなくなるきっかけを作ってしまうたりする。生徒が目標をもって取り組むことができる教材を使い、2時間の実習時間を効率よく安全に落ち着いて活動させるための準備やかたづけの仕方が重要でいろいろな工夫が必要である。

1. はじめに

* 学年と時期

1年の一泊移住にも持参できるように時期を考える。以前の被服教材はスカートやパジャマ、ショートパンツ、ベストなどのミシンを使った教材があったが、現在はミシンを常備している家庭が珍しくなってきた。また、布地の種類も多く、学校にあるミシンでは対応できなくなっている。実生活で衣服を作って着ることはなくなってきたといっている。多種多様な衣生活に合う教材を探すのは困難である。そこで、視点を変えて自分に似合う色を見つけたり、デザインをしたりする方向を考えた。また実生活に活かすため、一泊移住の活動に持参しみんなの前で着用し、出来栄をお互いに披露しあうことを取り入れてみた。

* 教材 ステンシルを使ったTシャツ



見本の表示



イメージを膨らませ、目標をもたせるためにも見本は、バラエティーに富んだものをたくさん見せた方がやる気が起こる。

* 材料

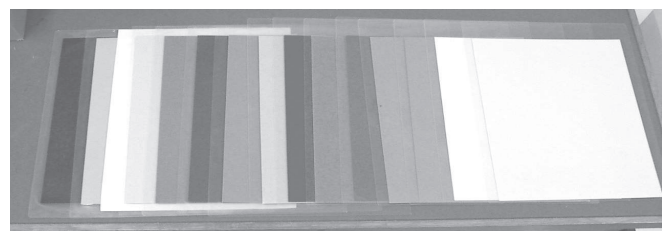
ステンシルシート2枚

染っ子 (工夫次第で公費で賄える)

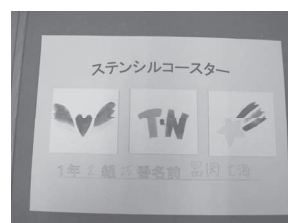
Tシャツ (生徒費) ポンポン3個

* カラーコーディネート

画用紙で作ったカラーカードを顔の下に当てて、自分に似合う色を探す活動を入れると班で楽しめる。



* コースターを染める



Tシャツを染める前にコースターを染めると練習になって良い。クラスごとに台紙の色を変えると提出率や採点するときに整理しやすく、時間を短縮できる。

2. 実習を効率よく行うための工夫

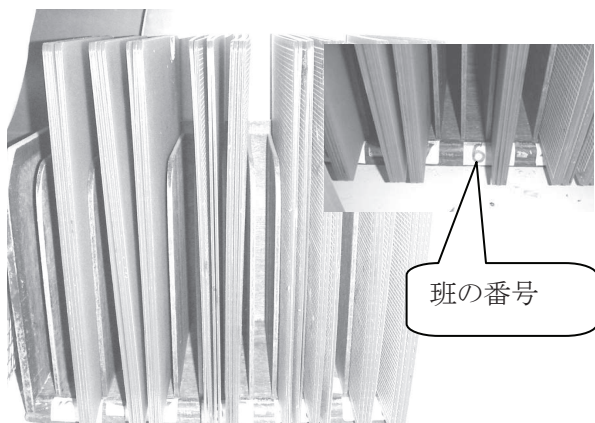
* 用具の整理

カッターの準備とかたづけ

出席番号を付け箱にも番号をつけて用意したこともあったが、かたづけに時間がかかり、生徒が固まりやすいので、班ごとにカッターの色を変える方法に変えた。台紙に班を記入しておき、班の容器を置けばいいようにしておく。時間が短縮でき、しかも生徒の動きもスムーズになった。



カッターシートの準備と片付け



積み重ねると重く、自分の班の物を探すのに時間がかかるので、出席簿のような本立てを利用し、班ごとにかたづけられるようにするとよい。点検もしやすい。

材料袋

事務室の使用済み茶封筒の大袋をためてもらい、個人用の材料袋に再利用する。宛名の書いていない方にクラス番号・名前を記入させる。クラスの箱を用意し、縦に置くようにすると、次回の授業で自分の袋を探しやすい。生徒にエコの話もできる。

使い捨てパレット

染料をポンポンになじませるときのパレットや染料を混ぜて色を作るときのパレットにミスプリントを使用する。印刷室にミスプリントを集める箱を用紙のサイズごとに用意し「ミスプリントはこちら！」の貼り紙をしておくだけで十分集まる。かたづけのとき、ポンポンの染料をふき取るのもこれを使用する。また途中で手が汚れても、洗うための移動をさせずに、この紙でふき取らせると生徒の移動がなく巡視しやすい。用意のときに用具と共に準備させ、いつも班のテーブルの真ん中に束で置かせるとよい。エコにもなる。



まとめ

教材には実際に役立つものが生徒にとっては、やりがいがあるようである。また、いろいろなアイデアを引き出すために、染め方の見本や説明の仕方を工夫するとよい。実習を行うときは、生徒の準備とかたづけがしやすいように生徒の動線をシミュレーションすることが重要である。作業が始まっても、できるだけ移動のないように必要なものを用意しておくことも生徒を落ち着いて活動させることにつながる。

補足 (針と糸を使う実習)

3年の保育のおもちゃの作成で、手縫いの作業を取り入れて、針と糸を使うことも入れておくようにするとよい。インシヤルやアップリケ、ボタンなどをつけて色々な縫い方も取り入れることができる。

